

富山高等専門学校 令和2年度数理・データサイエンス・AI教育プログラム・内部評価（1）

評価日時：令和2年3月26日

会議名称：数理・データサイエンス・AI専門部会

開催場所：富山高等専門学校

目的：令和2年度のデータサイエンス教育プログラムの内部評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
1. プログラムの履修・修得状況	B	プログラム開始年度である平成29年以降、関係科目の学年ごとの履修率は100%となっている。一方で修得率が100%とならない科目もある。そのため、AI戦略2019の戦略目標を見据え、全学科の卒業生の修得率を100%にすべく、令和3年より全学必修科目「データサイエンスⅠ,Ⅱ」を開講する。
2. 学修成果	B	全学科のディプロマポリシーに数理・データサイエンス・AIに関する教育の明確化がなされている。BYODが全学に導入されたことにより、データを扱うレベルが向上した。
3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	B	授業アンケートを実施しており、学生の理解度を分析している。例えば、産学連携教育Ti-TEAMにおけるアンケート結果では、7項目のうち4項目で平均3.5点以上（最高：4点）と高い評価となり、データサイエンスの理解が深まっている。
4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	B	本プログラムに関わる科目は、すべて第3学年以下に設定することで、履修および修得を促す規則としている。
5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	B	関係科目の学年ごとの履修率は、100%となっている。さらに、令和3年度より第1学年時に「データサイエンスⅠ,Ⅱ」を全学必修科目として開講することにより、全学科の卒業生の修得率が100%となる。

A：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果を達成した。

C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。

富山高等専門学校 令和2年度数理・データサイエンス・AI教育プログラム・内部評価（2）

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
6. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	—	令和3年3月卒業時点で修了者はいない。
7. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	B	教員プログラムの内容および手法について、運営諮問会議委員たちから高い評価を得ており、期待されている。
8. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	B	各学科では複数の科目で専門学科の教員と一般教養科の教員がリテラシーレベルの授業を実施している。令和3年度からは、「データサイエンスⅠ,Ⅱ」に集約して実施し、プログラム内容を強化する。さらに、非正規科目として実施していた産学連携教育Ti-TEAMを「データサイエンスⅡ」において実施し、企業のDX化の現状等を調査することにより「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解できる。
9. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	B	各学科では複数の科目でリテラシーレベルの授業を実施している。一方で各学科の授業で対応する項目が分散している。令和3年度からは、専門必修科目として各専門学科の教員が「データサイエンスⅠ・Ⅱ」を実施し、各専門分野にあわせた内容を展開するため、受講者側にとってわかりやすくなる。

A：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果を達成した。

C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。

自己点検委員会委員長へのレビュー

実施日 令和3年3月30日 13:00-14:00

参加者 数理・データサイエンス・AI専門部会員

委員長コメント：

令和2年度に高専発！「Society 5.0型未来技術人財」育成事業のCOMPASS 5.0「AI・数理データ分野」の拠点校ならびに、GEAR 5.0「介護・医工分野」の協力校となった。COMPASS 5.0 およびGEAR 5.0 と連携しながら、富山高等専門学校 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの改善・進化を進めること。